2026年度 第3四半期決算説明会

- YX2026技術・生産改革の進捗 -

2026年11月13日

横浜ゴム株式会社
代表取締役社長兼COO
清宮　眞二

目次

0. エグゼクティブサマリー

1. 2026年度3Q（1-9月）実績

2. 2026年度 年間計画

3. YX2026技術・生産改革の進捗

0. エグゼクティブサマリー

2026年度 第3四半期累計 （1-9月）実績	• **3Q累計（1-9月）期間の売上収益・全ての利益項目において過去最高を更新** - 3Q累計（1-9月）事業利益は前年比467億円増（46%増） - タイヤ（OHT除く）：REP販売量は、3Q累計で前年比104%。欧州・インドが牽引 - OHT：農機タイヤは、3Q累計でOE・REPともに前年超え。OE販売量は前年比110%、REPは前年比104% • **北米は3Q（7-9月）に大きく回復。7-9月のREP販売量は前年比108%と市場（前年並み）を上回る伸び**
2026年度 年間見通し	• 2026年度通期業績・配当予想は8月公表計画を維持。**事業利益は3Q累計で年間計画の77%に達し、通期計画達成に向け順調に進捗**
YX2026 技術・生産改革 の進捗	• YX2026の4つのテーマを着実に進め、技術力とスピード、品質・コスト競争力を向上 • 次期中計では、**LCCで培った生産基盤を全社に広げ、販売拡大と利益成長を支えていく**

Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

目次

0. エグゼクティブサマリー

1. 2026年度3Q（1-9月）実績

2. 2026年度 年間計画

3. YX2026技術・生産改革の進捗

2026年度3Q累計（1-9月）実績

単位（億円）	2026年度3Q累計		2025年度3Q累計	増減	増減率
売上収益	過去最高	9,669	8,772	+897	+10.2%
事業利益	過去最高	1,474	1,007	+467	+46.3%
(利益率)	過去最高	(15.2%)	(11.5%)	(+3.7%)	
営業利益	過去最高	1,549	917	+633	+69.0%
(利益率)	過去最高	(16.0%)	(10.4%)	(+5.6%)	
当期利益	過去最高	960	661	+299	+45.2%

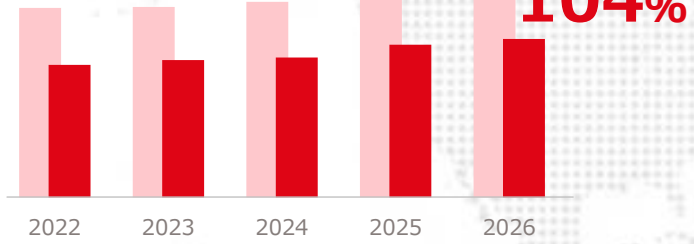
Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

1-2. 2026年度 3Q累計（1-9月）実績　タイヤ事業販売実績推移

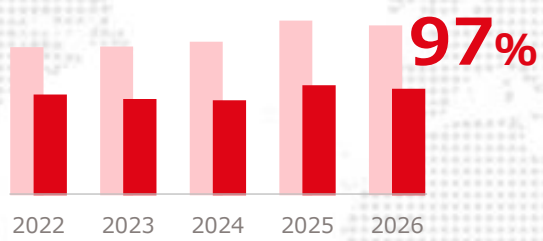
タイヤ事業 販売実績推移 (OHT事業除く)

：OE･REP合計販売本数　：REP販売本数

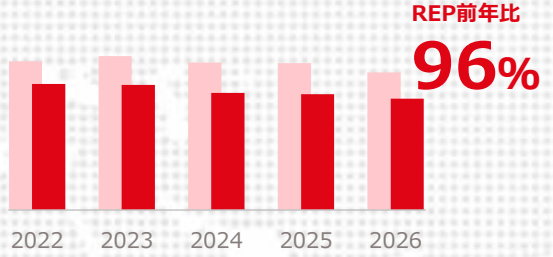
◆全体



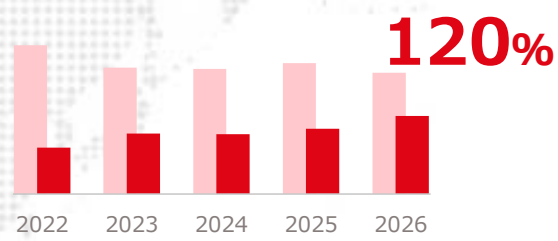
◆日本



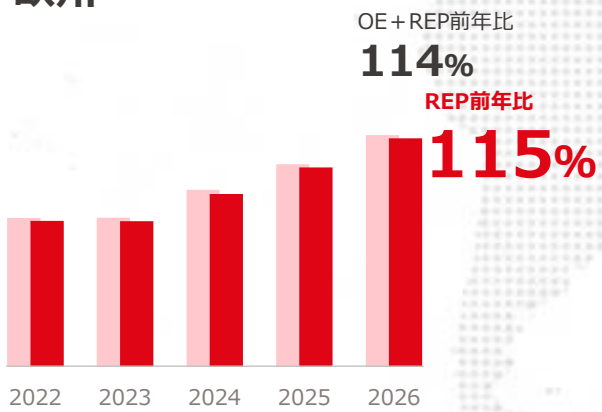
◆北米



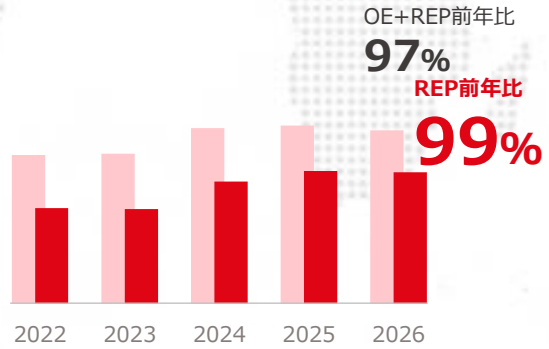
◆中国



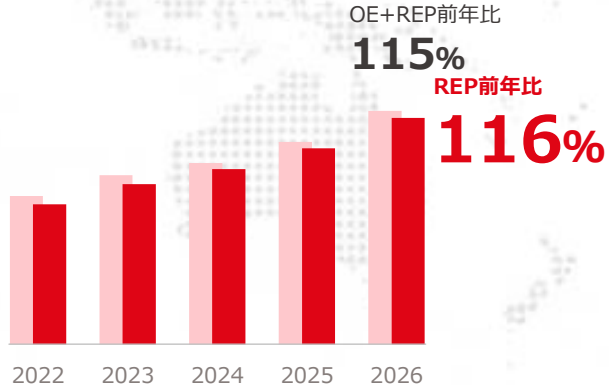
◆欧州



◆アジア



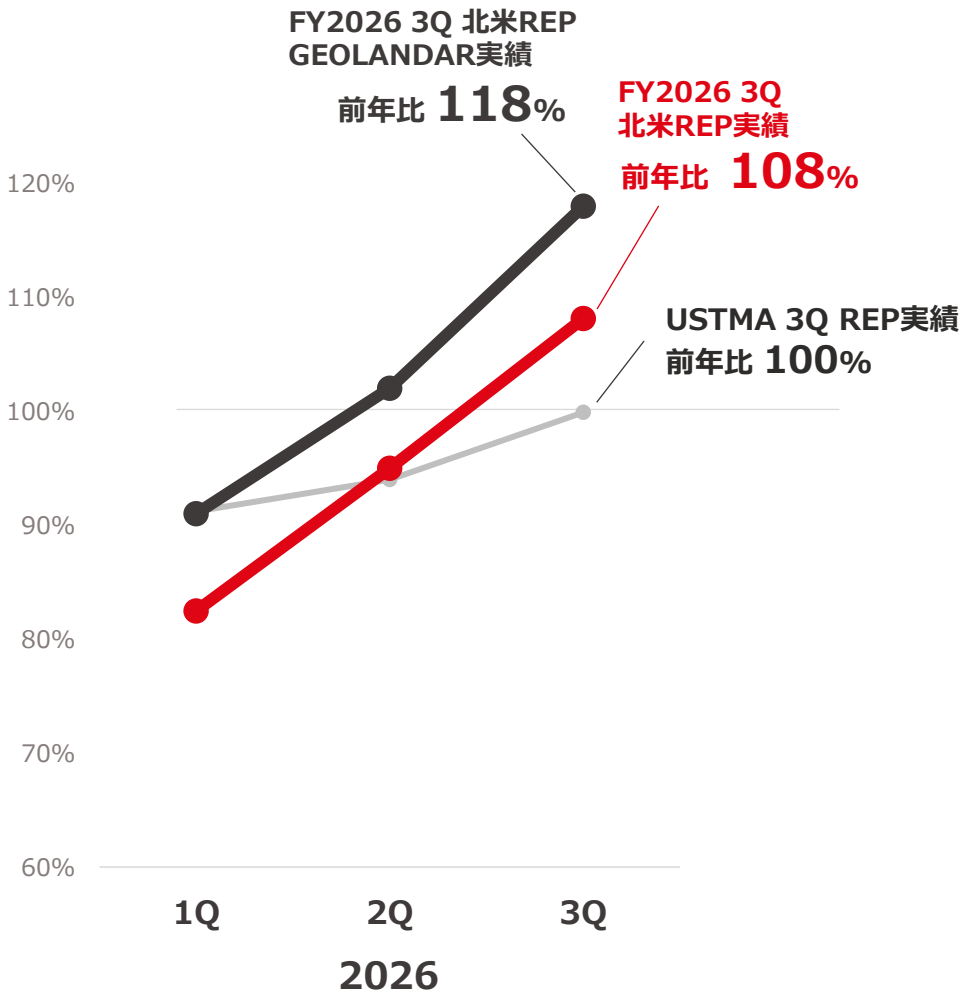
◆インド

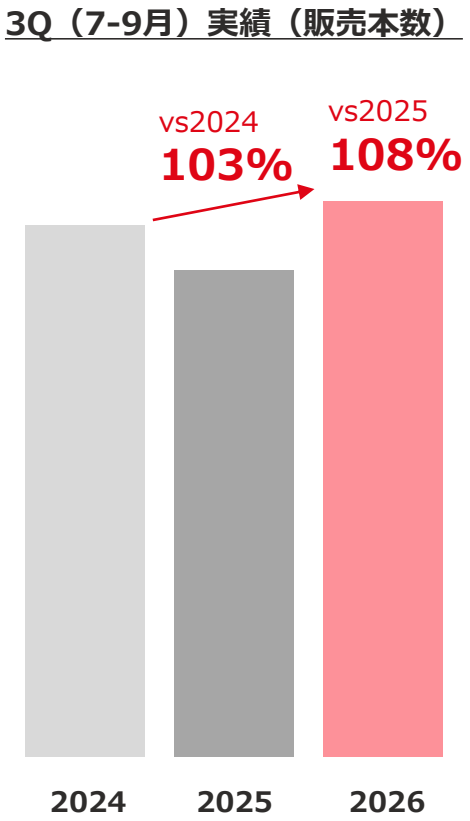


Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

1-3. 2026年度 3Q累計（1-9月）実績　タイヤ事業販売実績推移 北米の取組み

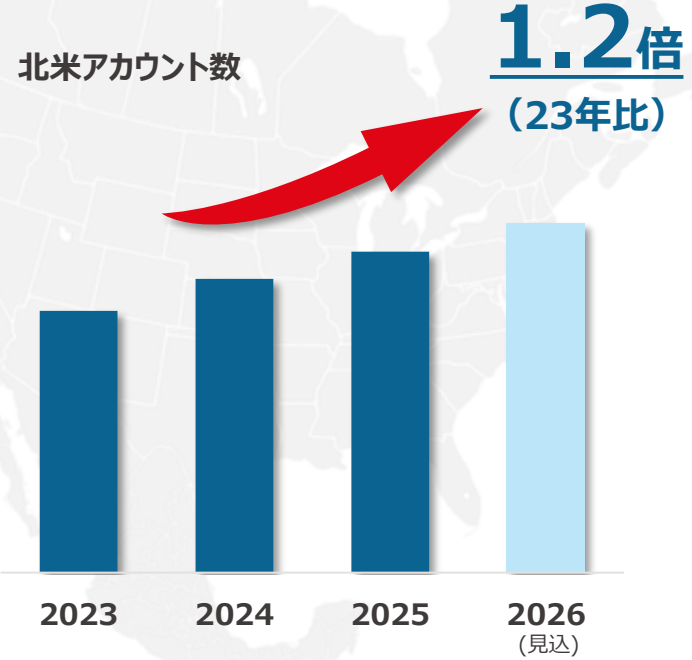
タイヤ事業 北米販売本数（前年比）/ 3Q（7-9月）実績





当社の取組み

■ 大手ディーラーとのパートナーシップ・販促強化や、新規アカウント開拓が奏功しシェア拡大

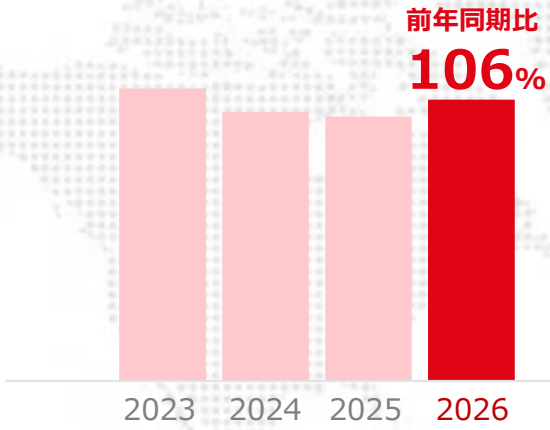


Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

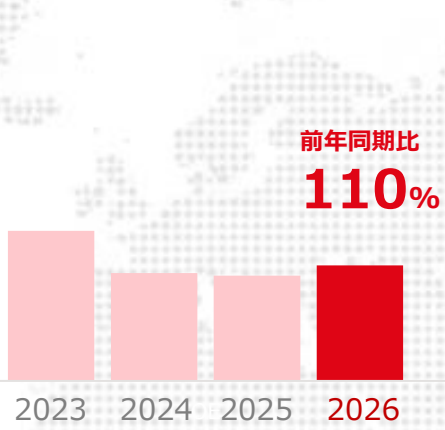
1-4. 2026年度 3Q累計（1-9月）実績　OHT農機タイヤ販売実績推移

農機用タイヤ販売実績推移 （重量ベース）

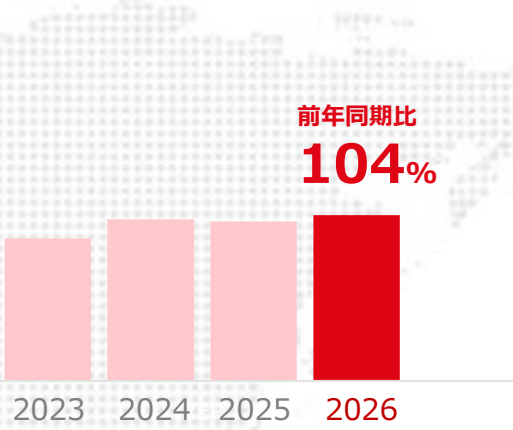
◆OE+REP合計



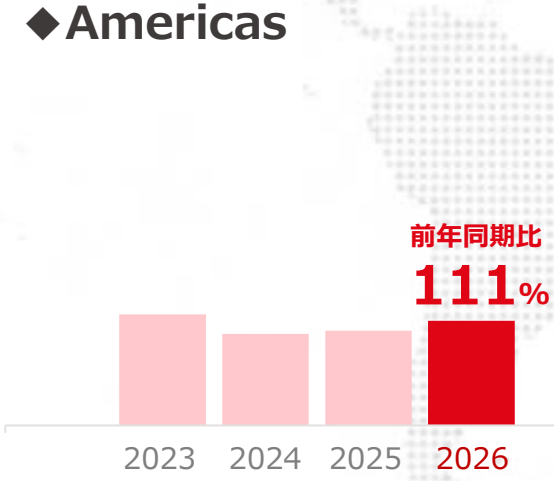
◆OE



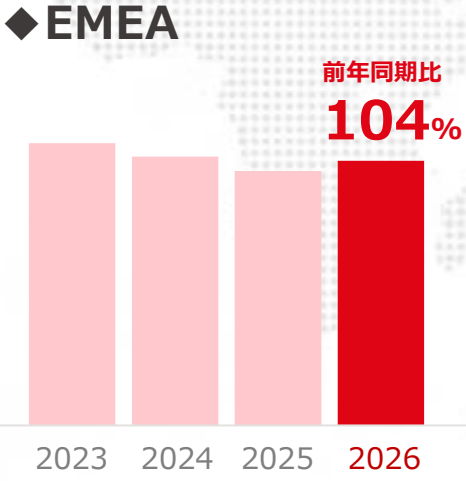
◆REP



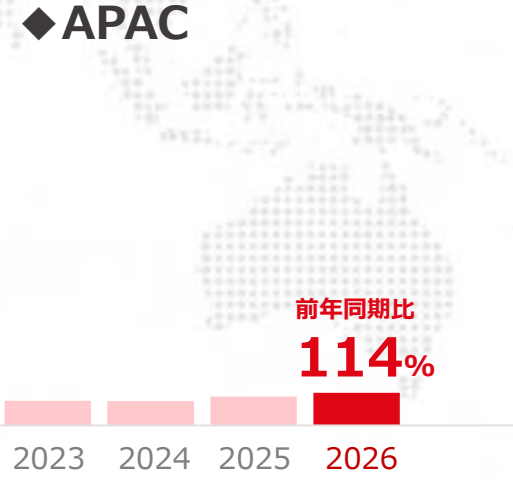
◆Americas



◆EMEA



◆APAC



Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

目次

0. エグゼクティブサマリー

1. 2026年度3Q（1-9月）実績

2. 2026年度 年間計画

3. YX2026技術・生産改革の進捗

年間計画

単位（億円）	2026年度 計画		2025年度 実績	増減率
売上収益	過去最高	13,200	12,350	+6.9%
事業利益	過去最高	1,925	1,666	+15.6%
(利益率)	過去最高	(14.6%)	(13.5%)	(+1.1%)
営業利益	過去最高	1,995	1,529	+30.5%
(利益率)	過去最高	(15.1%)	(12.4%)	(+2.7%)
当期利益	過去最高	1,170	1,054	+11.0%
1株当たり配当	過去最高	223円	134円	+89円

Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

目次

0. エグゼクティブサマリー

1. 2026年度3Q（1-9月）実績

2. 2026年度 年間計画

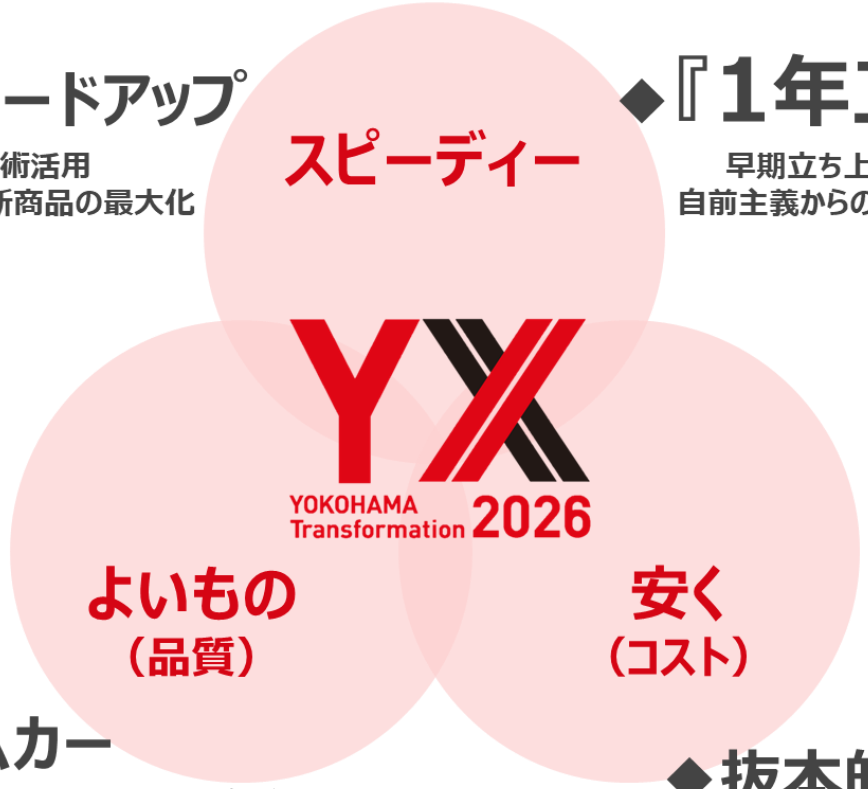
3. YX2026技術･生産改革の進捗

タイヤ消費財「技術・生産」改革

『よいものを、安く、スピーディーに』

◆タイヤ開発スピードアップ
AI・シミュレーション技術活用
新興カーメーカー対応、投入新商品の最大化

◆『1年工場』への挑戦
早期立ち上げ ➡ 早期投資回収
自前主義からの脱却、買収シナジー最大化



◆次世代プレミアムカー 新車装着タイヤの開発強化
プレミアム電動車対応・耐摩耗・軽量化

◆抜本的製造コストダウン
ATGの低コスト生産モデルの応用
買収スケールメリットによる原料調達コスト低減

Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

3-2. YX2026 技術・生産改革の進捗 - タイヤ開発スピードアップ

開発スピードアップ – HAIcoLab活用

開発スピードアップ

1商品あたりの期間短縮（YX2023対比）

-1.5年

ゴム配合設計・タイヤ構造設計・
金型設計へのAI（HAICoLab）活用

新商品・サイズ開発数

新商品・サイズ開発数（23年比）

1.2倍

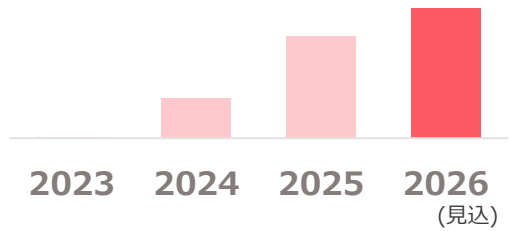
国内2026年9月発売
SUV用スタッドレスタイヤ
「ice GUARD 8 SUV」



中国OEメーカーへの拡販

中国OEメーカーへの新車装着本数（23年比）

+170万本以上増



次期中期経営計画 YX2029

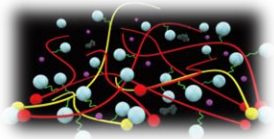
**AI利活用の更なる拡大による、予測精度向上と設計プロセス変更で
開発スピードを向上**

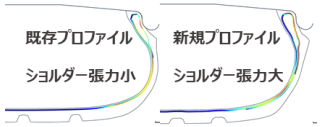
Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

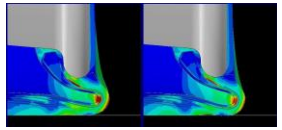
プレミアムOE（POE）開発強化タスク

YX2026における性能達成

軽量化	▲8%低減（23年比）
転がり抵抗低減	12%改善（23年比）
高剛性（耐久性）	維持（軽量化・転がり抵抗と両立）



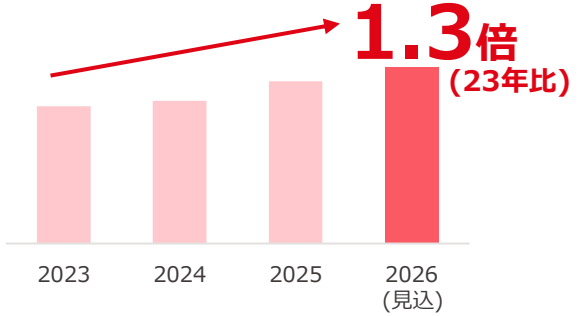




プレミアムOEからの評価獲得

軽量化・低転がり抵抗・高剛性を両立し、次期中計期間のPOE装着の獲得にも寄与

プレミアムカー新車装着本数
※BMW M / Mercedes AMG / Porsche



最近の納入実績



新型BMW iX3

次期中期経営計画 YX2029

難易度が高まるPOE要求性能への対応

耐摩耗・転がり抵抗の追求
材料・構造による機能強化と製造精度の飛躍的向上

Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

3-4. YX2026 技術・生産改革の進捗 - LCC（中国・メキシコ新工場）

中国杭州新工場　1年工場（11か月で立ち上げ）





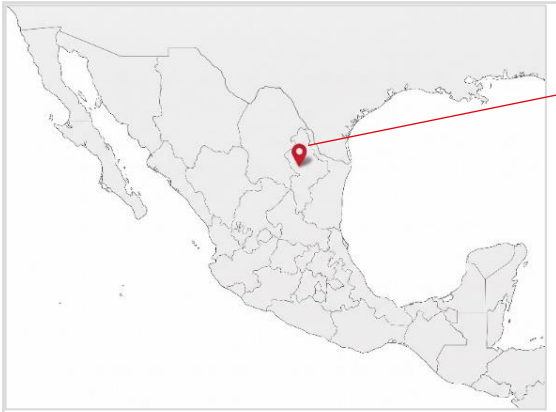
生産能力　900万本
フル生産　2028年予定
（2027年 700万本生産予定）

量産開始 2026年3月 当初6月から前倒し



中国市場 独自商品
YUYU TIGER
优游虎

メキシコ新工場





生産能力　500万本
フル生産　2030年予定
（2027年150万本生産予定）

量産開始 2027年1Q 計画通り進捗



New　**11月下旬開所予定**

主力商品
【SUV・ピックアップトラック用】
GEOLANDAR

Low-Cost Conversion

Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

3-5. YX2026 技術・生産改革の進捗 - 生産方式の深化（POE・高付加価値品、LCC）



従来：一様の生産方式 （＋ 一部特殊対応）



よいもの：高付加価値品

安く/スピーディー：ボリュームゾーン

POE・高付加価値品

- プレミアムOE向け専用ライン増設（2027年稼働）
- ハイインチ・ADVAN対応の新たな生産ラインを構築
- 多品種・サイズ展開に対応しながら供給能力・品質を大幅に向上

LCC
Low-Cost Conversion

- 計画生産・大量生産によるダウンタイムを極小化して大幅なコストダウンを実現
- 中国・インドの生産ノウハウを応用

次期中期経営計画 YX2029

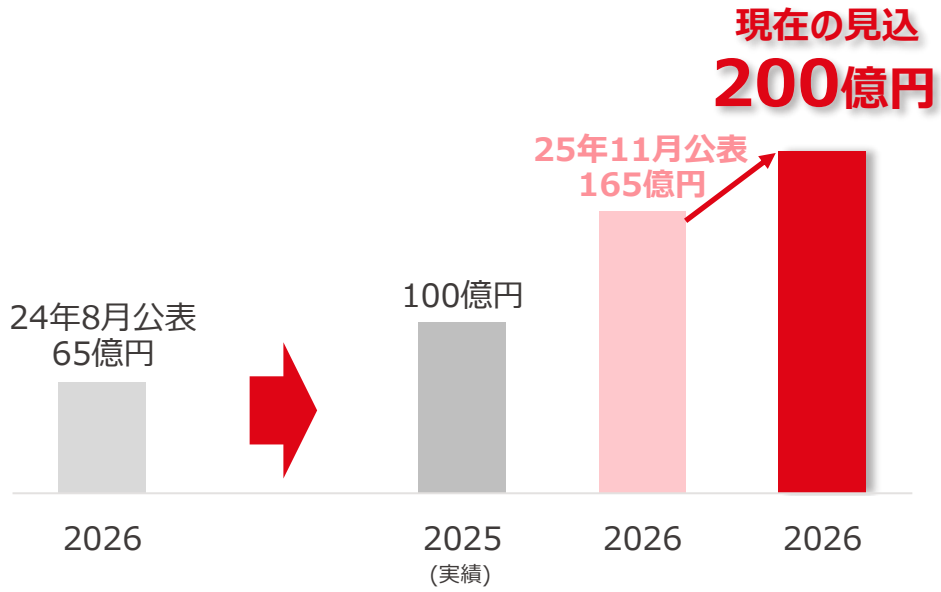
LCCで培った生産ノウハウを既存工場へ展開
（自動化・海外市販設備導入等）

Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

3-6. YX2026 技術・生産改革の進捗 - 抜本的コストダウン

抜本的コストダウンの進捗

コストダウンの見込額（原材料費・加工費合計）



原材料費

新規サプライヤー採用数
従来比 **140%**

原価低減アイテム数
従来比 **130%**

中東情勢時の原材料確保にも寄与
（BCPとコスト削減の両立）

加工費

	YX2026	現在の見込
ハイインチ生産設備 能力・稼働率向上	+3%増量	**+5%増量** （23年比）
エネルギーコスト削減 （燃料転換） (フィリピン・タイ工場)	15%低減 ($/t)	**28%低減** （23年比）

次期中期経営計画 YX2029

原材料：サプライヤーの更なる開拓・対象品目拡大と採用前倒し
加工費：ハイインチ品の能力増強・エネルギーコスト削減強化

Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

3-7. YX2026 技術・生産改革の進捗 まとめ

開発スピードアップ AI（HAICoLab）活用

1商品あたりの期間短縮（YX2023対比）

-1.5年

プレミアムOE（POE）開発強化タスク

軽量化	転がり抵抗低減	高剛性（耐久性）
▲8%低減（23年比）	12%改善（23年比）	維持

LCC 中国・メキシコ新工場

中国杭州新工場
量産開始 26年3月 *当初6月から前倒し
メキシコ新工場
量産開始 27年1Q *計画通り進捗

抜本的コストダウン

新規サプライヤー採用数	原価低減アイテム数
従来比 140%	従来比 130%

ハイインチ生産設備能力稼働率向上	エネルギーコスト削減（燃料転換）
+5%増量（23年比）	28%低減（23年比）

新商品開発数（23年比）
1.2倍

中国OEメーカーへの新車装着本数（23年比）
＋170万本以上増

プレミアムカー新車装着本数（23年比）
1.3倍

コストダウンの見込額
200億円

Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.


YOKOHAMA


YOKOHAMA
Transformation
2026

ご参考：日本証券アナリスト協会ディスクロージャー優良企業選定第1位（自動車・同部品・タイヤセクター）

公益社団法人日本証券アナリスト協会による
2026年度（第32回）
「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」
自動車・同部品・タイヤ部門で1位の優良企業に初選定

情報開示の充実度や経営陣がIRに積極的に関与している姿勢などを高くご評価いただきました。

今後も積極的な情報開示と丁寧な説明を行い、皆様の貴重なご意見・ご指摘を真摯に受け止め、さらなる企業価値向上に努めてまいります。

【証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定結果】
https://www.saa.or.jp/standards/disclosure/selectiont/index.html

ディスクロージャー
2026年度 優良企業

Disclosure

公益社団法人
日本証券アナリスト協会
The Securities Analysts Association of Japan

Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

ご参考：統合報告書2026発行



サステナビリティサイト「統合報告書2026」
https://www.y-yokohama.com/sustainability/information/backnumber_report/

「利益率向上」「期待成長性向上」「資本コスト低減」という3つの企業価値向上ドライバーからなる「企業価値算定式」をベースに誌面構成を刷新。
「企業価値」「利益率向上」「期待成長性向上」「資本コスト低減」の4章でお伝えしています。

Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.